名港海運株式会社

（名証メイン 9357）

2027年3月期　第2四半期(中間期)
決算説明資料

2026年11月11日

© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

2027年3月期　第2四半期連結決算概要

2027年3月期 2Q実績

- 沿岸作業や陸上輸送等における堅調な取扱いに加え、航空貨物のスポット案件獲得により増収 ↑
- コスト上昇に加え、航路改編の影響や米国における主要顧客の取扱量減少等により減益 ↓

2027年3月期 通期予想

- 売上高・利益ともに期初予想に対して堅調に推移しているものの、地政学的リスク等の不確実性を踏まえ、通期業績予想は据え置き

  なお、政策保有株式の売却は下期に実施予定

	2026年3月期 2Q		2027年3月期 2Q		増減		2027年3月期 通期予想	
	金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	増減率	金額（百万円）	進捗率
売上高	40,605	100.0%	42,716	100.0%	＋ 2,110	＋ 5.2%	81,000	52.7%
営業利益	3,206	7.9%	2,833	6.6%	△ 372	△ 11.6%	5,100	55.5%
経常利益	4,264	10.5%	3,882	9.1%	△ 382	△ 9.0%	6,700	57.9%
親会社株主に帰属する中間純利益	2,899	7.1%	2,733	6.4%	△ 165	△ 5.7%	6,000	45.6%

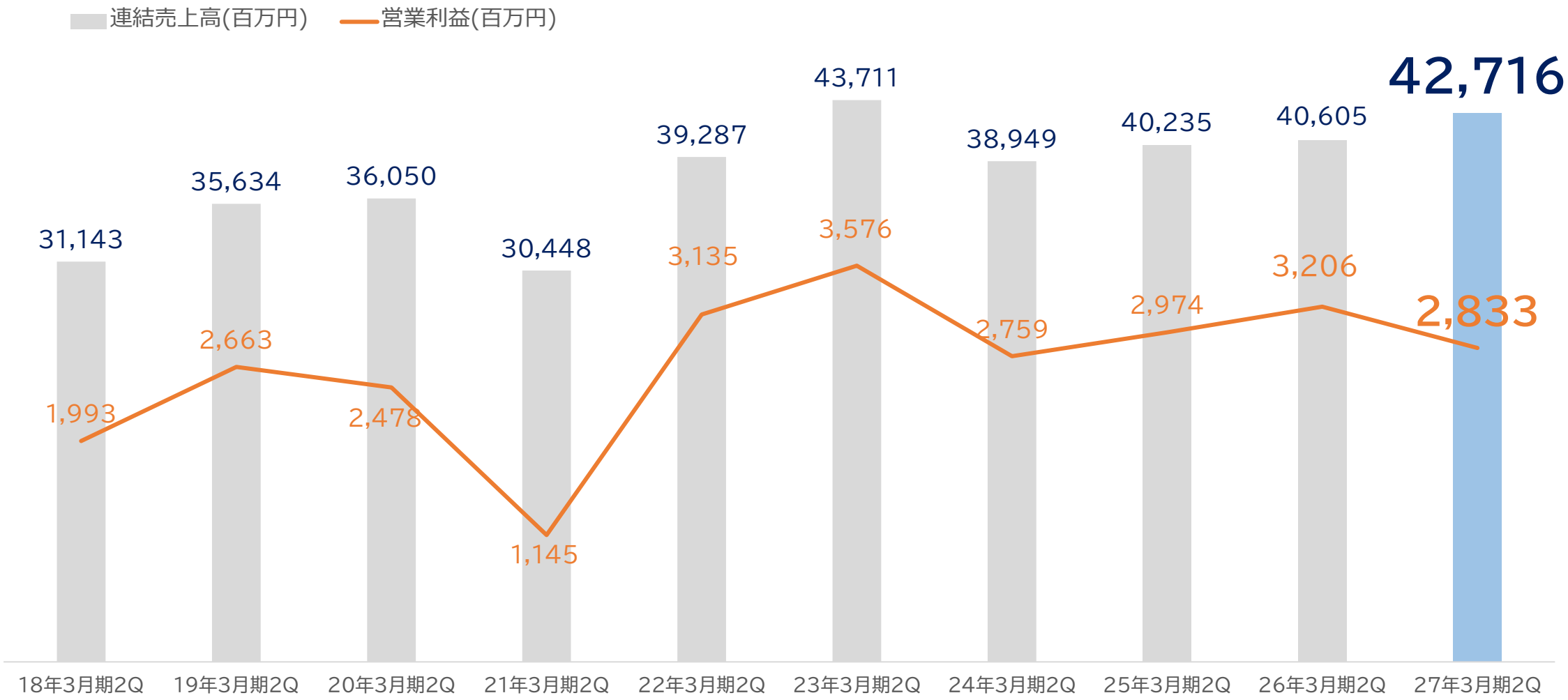
© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

部門別売上高および主な増減要因

セグメント	部門名	2027年3月期2Q（前年同期比）	主な増減要因
（単位：百万円）			
港湾運送およびその関連	港湾運送部門	25,544 （+1,092 / +4.5 %）	• 沿岸作業の取扱いが好調 • 船内作業の取扱いが低調
	倉庫保管部門	4,773 （+32 / +0.7 %）	• 国内、欧州、アジアの保管貨物が増加 • 米国の保管貨物が減少
	陸上運送部門	6,895 （+647 / +10.4%）	• 国内輸送および欧州域内輸送の増加
	航空貨物運送部門	2,417 （+333 / +16.0%）	• 輸出の取扱いが好調
	その他の部門	2,406 （+151 / +6.7%）	• 梱包作業、内航海上輸送、タンク事業等の取扱いが増加
		42,037 （+2,257 / +5.7%）	
賃貸		656 （△149 / △18.6%）	• 倉庫賃貸面積の減少
その他		21 （+2 / +15.1%）	

© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

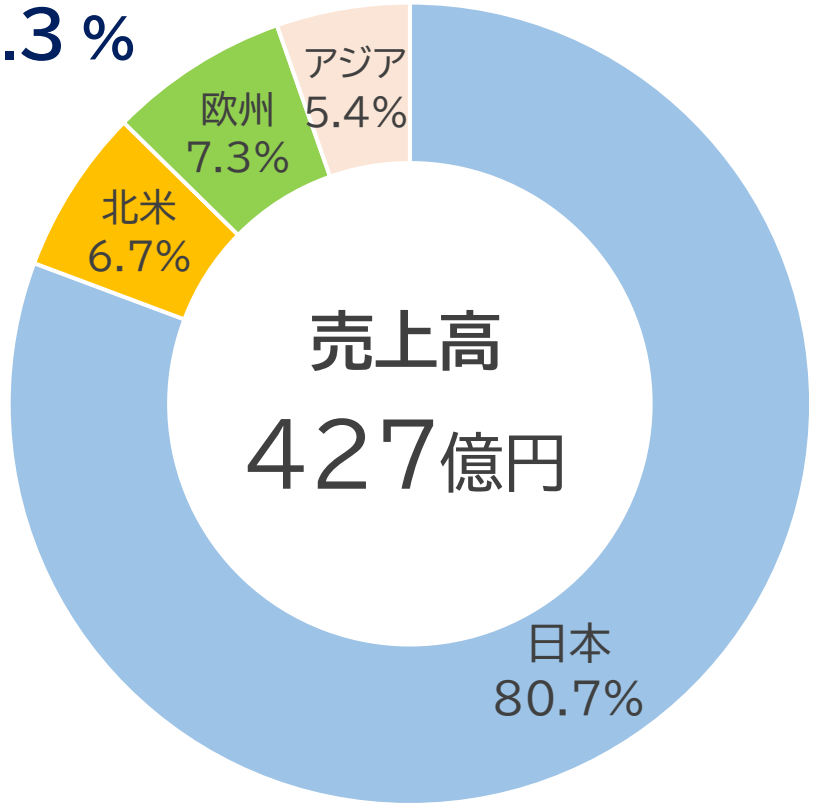
連結売上高および営業利益の推移



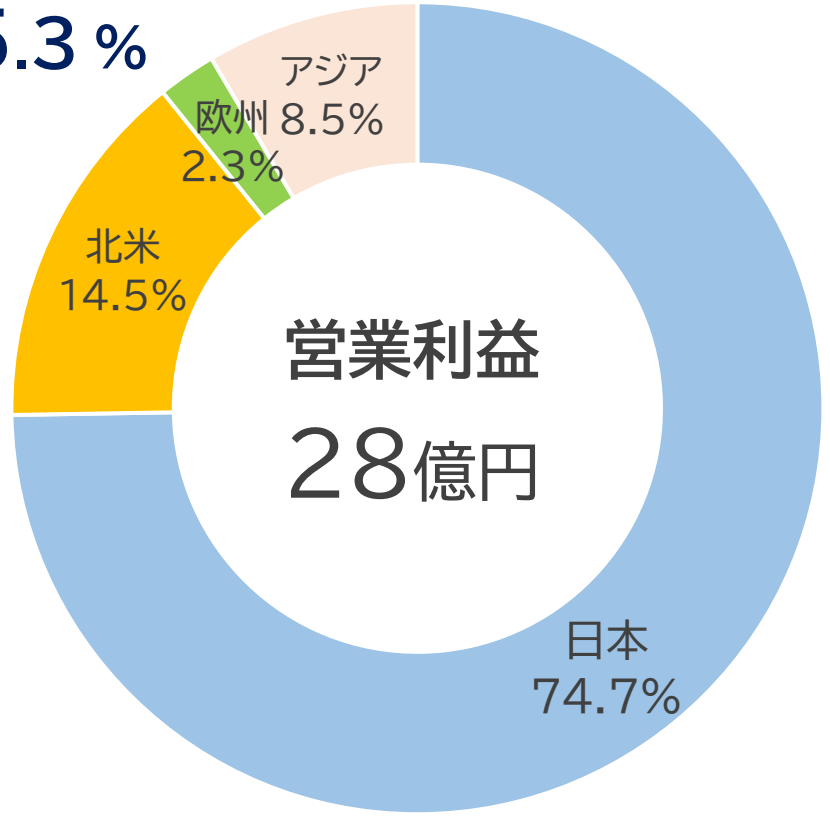
© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

連結業績 エリア別割合

海外割合
19.3％



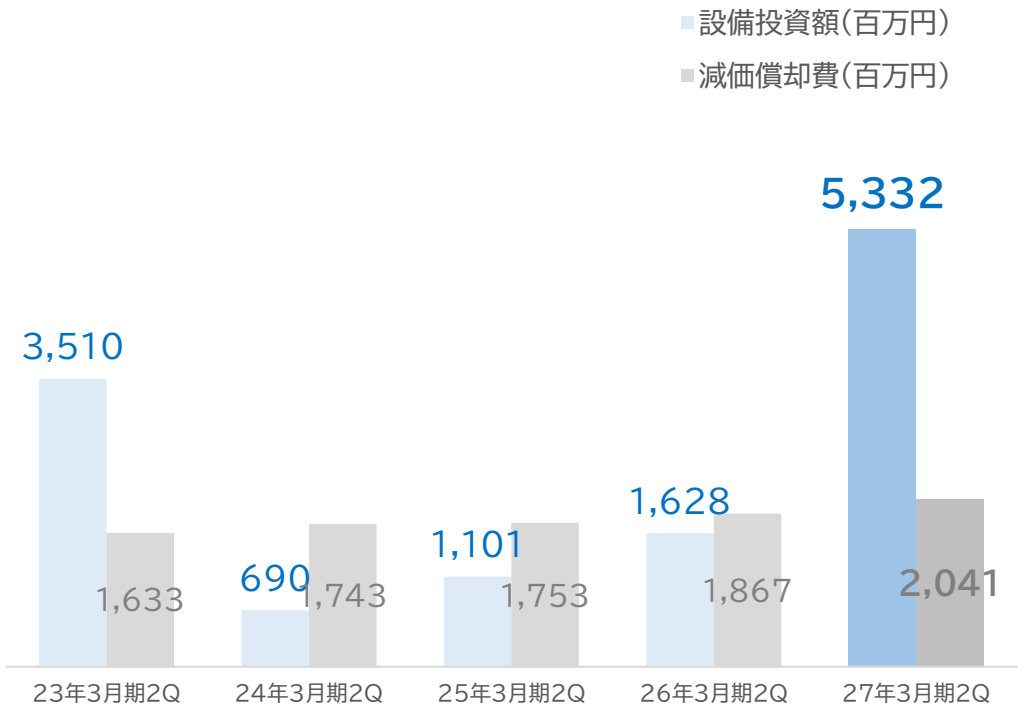
海外割合
25.3％



© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

設備投資の推移

- 国内および海外において、大型投資案件が重なり設備投資額は約53億円を計上しました
- これらの投資は中期経営計画「MX2029」の基本戦略である国内事業の拡大、海外事業の成長に向けた投資であり、将来の事業成長を牽引します

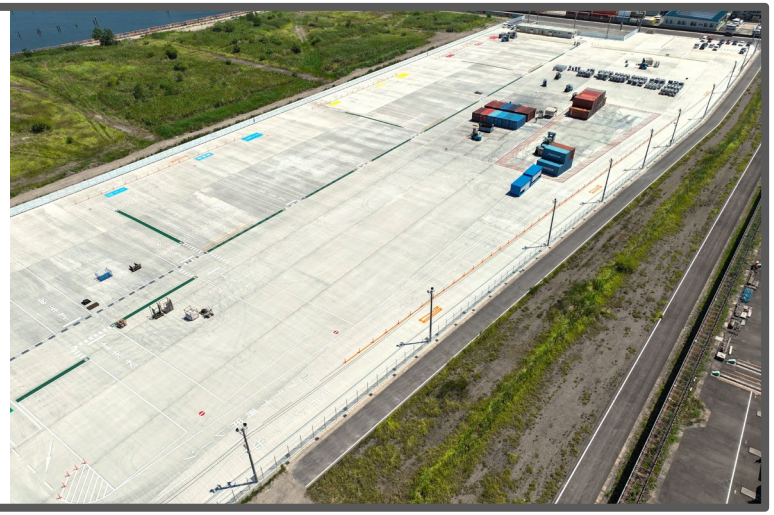


当期の主な設備投資

2026年8月 営業開始

飛島西物流センターの建設
(愛知県飛島村)

倉庫およびヤードを備えた総合物流施設を計画しており、ヤードの先行竣工に伴い営業を開始しました。金城ふ頭で取扱うアルミインゴットを本施設へ移管し、跡地はモータープールとして活用中。なお、倉庫の建設計画については詳細を検討中。



2027年3月 竣工予定

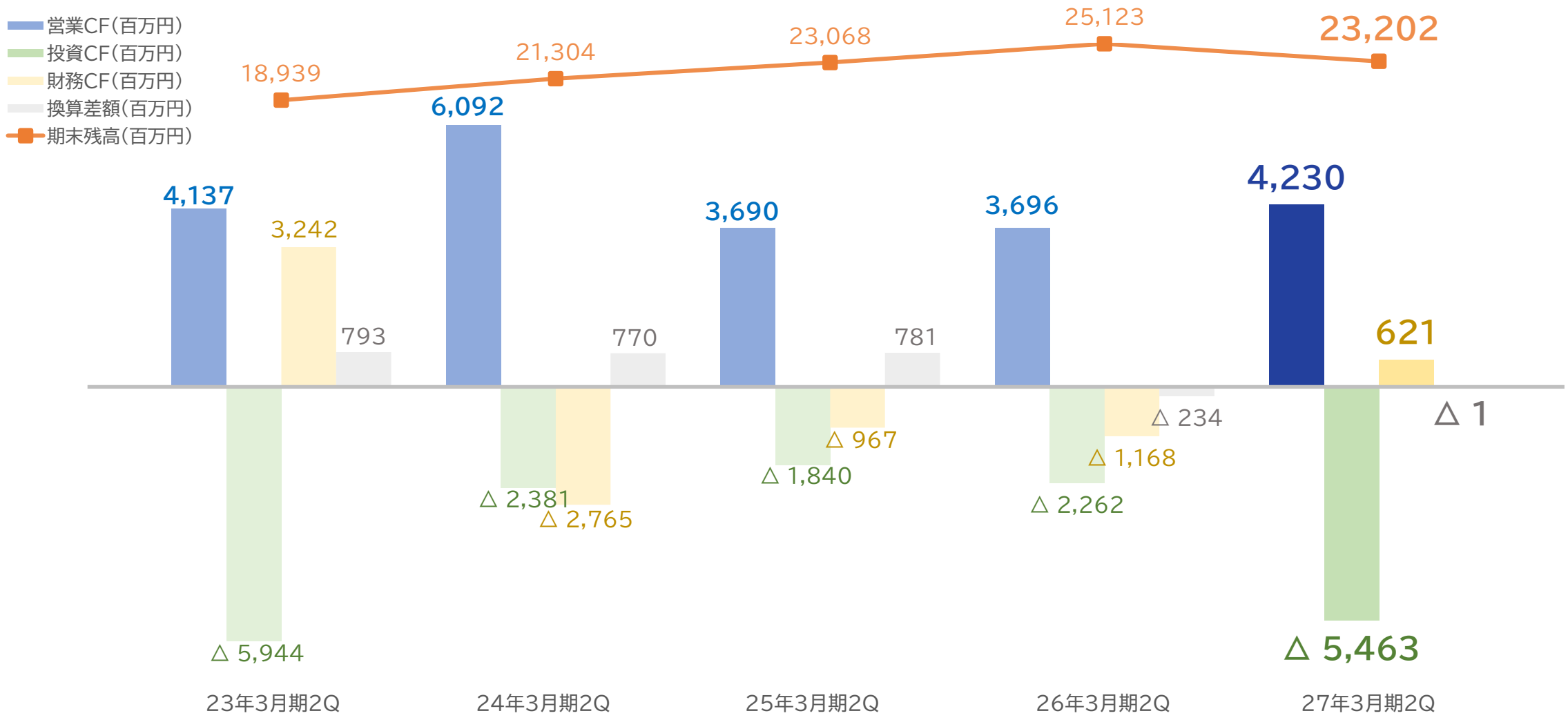
木曽岬物流センターの建設
(三重県木曽岬町)

作業性とレイアウト自由度を高め、十分な床耐荷重を確保した、汎用性の高い平屋建ての新物流センターを建設中。長尺貨物や重量物の取扱いに対応し、名古屋港における倉庫再編に寄与。



© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

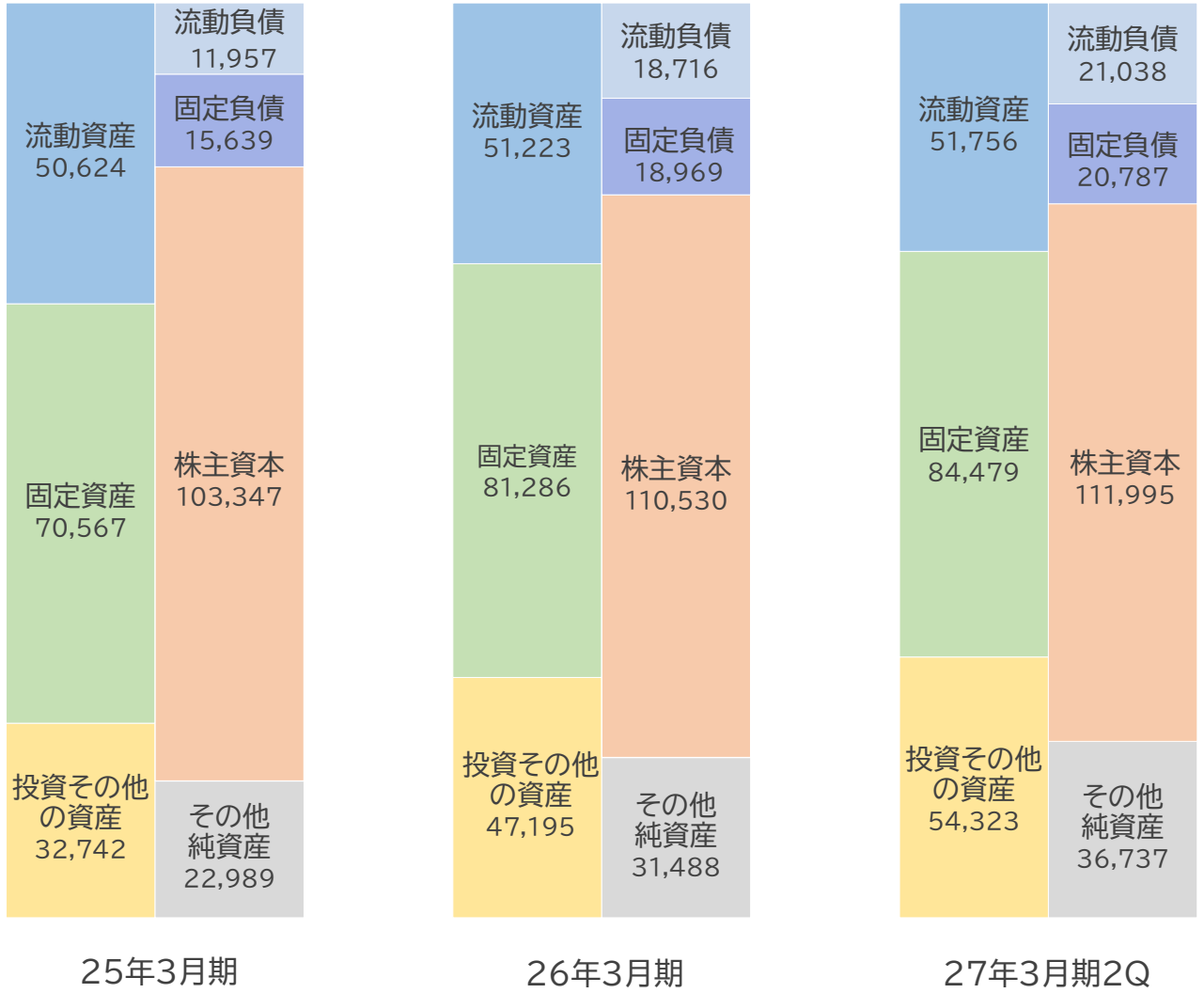
連結キャッシュ・フローの推移



© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

連結貸借対照表の推移

（単位：百万円）



26年3月期末と27年3月期2Qの比較

（主な変動要因）

流動資産

- その他の流動資産の増加　（＋559）
- 受取手形及び売掛金の増加　（＋288）
- 現金及び預金の減少　（△221）

固定資産

- 建設仮勘定の増加　（＋3,081）

投資その他の資産

- 投資有価証券の増加　（＋7,289）

流動負債

- 短期借入金の増加　（＋2,500）

固定負債

- 繰延税金負債の増加　（＋2,208）
- 長期借入金の減少　（△255）

株主資本

- 利益剰余金の増加　（＋1,383）

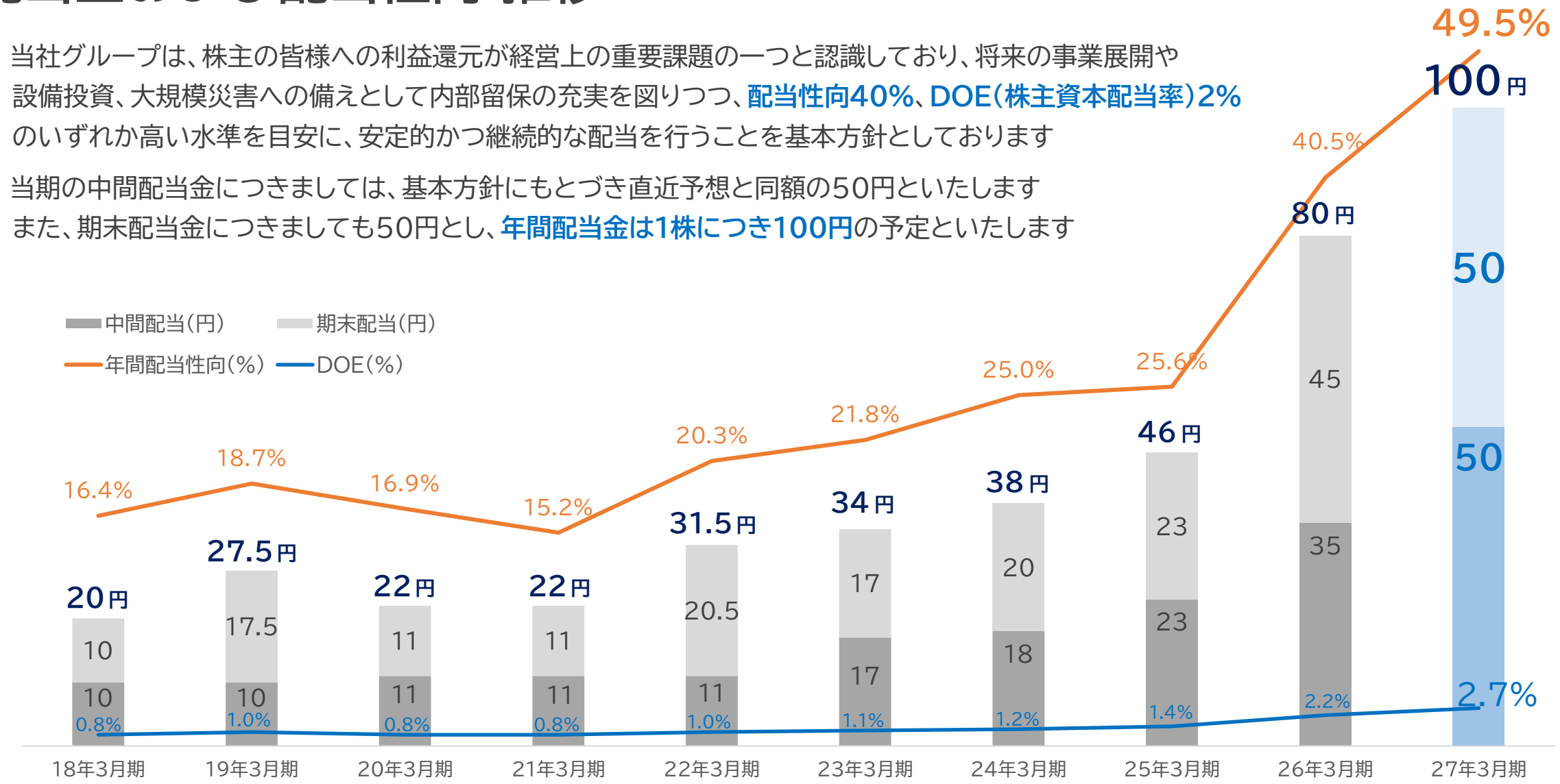
その他純資産

- その他有価証券評価差額金の増加　（＋4,870）

© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

配当金および配当性向 推移

- 当社グループは、株主の皆様への利益還元が経営上の重要課題の一つと認識しており、将来の事業展開や設備投資、大規模災害への備えとして内部留保の充実を図りつつ、**配当性向40%、DOE（株主資本配当率）2%**のいずれか高い水準を目安に、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としております
- 当期の中間配当金につきましては、基本方針にもとづき直近予想と同額の50円といたします
  また、期末配当金につきましても50円とし、**年間配当金は1株につき100円**の予定といたします



※27年3月期の期末配当、年間配当性向は予想値

© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

その他 トピックス

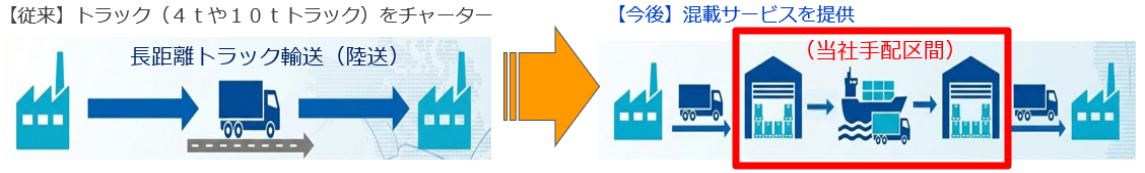
「藤前干潟クリーン大作戦2026」に参加

日本有数の渡り鳥の飛来地であり、ラムサール条約登録湿地である藤前干潟の環境を守るため、名港海運グループで「藤前干潟クリーン大作戦」に参加しました。

港という公器を預かる企業として、持続可能な社会の実現に向けて、豊かな名古屋港を次世代へと繋いでまいります。



新サービス「カモメ混載便」開始



少量の貨物でもご利用いただける新サービス「カモメ混載便」を開始いたしました。「カモメ混載便」は名古屋港を基点とし、北海道（苫小牧）から九州（博多）まで、全国を縦断するルートを展開しており、混載によるコストの最適化に加え、CO_2排出量の削減やモーダルシフトに貢献します。

また、高い運航率と海上迂回ルートでBCP（事業継続計画）策定に寄与し、費用低減と持続可能な物流基盤の構築を両立します。





MEIKO TRANS
© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

【ご注意】

当資料は、名港海運株式会社（以下、「当社」という）へのご理解を深めていただくことを目的として、当社が作成したものです。

当資料に記載されている将来にわたる事項については、2026年11月11日現在において入手している情報に基づいて、当社が予測および判断したものであり、様々なリスクや不確定要素に左右され異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。当社は、これら将来にわたる事項について、内容の確約・保証および情報を訂正する一切の義務を負いません。

投資・その他のご判断については、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

© 2026 MEIKO TRANS CO.,LTD.

TOTAL LOGISTICS PARTNER

MEIKO TRANS